

企画意図

いじめには、無視、暴力、プロフ・ブログ・掲示板（学校裏サイト）での誹謗中傷などがあります。ケースによって、対処法には違いがあります。本作品は、それぞれのケースに合わせて、どのような対応をすれば、いじめ被害を解決できるか、保護者や教師にどのように相談していけばいいかを、再現ドラマを交え、教育評論家尾木直樹先生がわかりやすく解説したものです。子どもたちが話し合いの中で、人権を尊重する心を育てられるように制作されています。

内容

Case Study 1 無視

ある日、学校に登校すると、周囲の視線がいつもと違う。声をかけても反応がおかしい。はっきりとした無視もあれば、判然としない無視もある…。

そんなとき、被害者側には、どういう対応ができるか。無視の原因も、いじめとも判断できないとき、どのように対応すべきかを紹介します。

☆ 無視されたとき、被害者はどう対応したらよいでしょう。

☆ クラスの空気がそうなったとき、気づいた人は、どうしたらよいでしょう。

☆ 教師や保護者にどう救いを求めたらいいのだろう。

Case Study 2 暴力

はっきりとした暴力のほかに、悪ふざけや遊びの延長のようにして起きる暴力。

友だち関係を失いたくないために、暴力を遊びの延長だと考えてしまう被害者もいます。そのため、加害者にも暴力=いじめの自覚がない場合があります。

そんなとき、被害者には、どうした行動が求められるか。どのような対応ができるかを紹介します。

☆ 遊びなのか、暴力なのかわからないとき、被害者はどう対応したらいいのか。

☆ クラスメートはどう行動したらよいでしょう。

☆ 教師や保護者にわかってもらうには、どうしたらいいのだろう。

Case Study 3 携帯

ちょっとした諍いや行き違いから始めた、ネットでの誹謗中傷が、あるとき見知らぬ人まで加わった、ネットの暴力に変わる…。安易に携帯を使うことで生まれる予想もしなかった被害。姿の見えないネットのいじめにどう対応していけばいいかを紹介します。

☆ 掲示板やプロフなどで、誹謗中傷されたら、被害者はどう対応したらいいか。

☆ ネットで知った人は、どう行動したらよいのでしょうか。

☆ 教師や保護者と一緒に取り組むには、どうしたらいいだろう。